



さわらび保育園年報
第15号

2025年(令和7年)9月1日 発行

発行/編集

社会福祉法人 輔仁会
さわらび保育園

〒813-0031福岡市東区八田4-6-5
<http://www.hojinkai.ed.jp/sawarabi/>

「ある保育園」の思い出 理事長 大浦 純平

(元:さわらび保育園 保父 / 前:つぼみ保育園 園長)

今年三月末、福岡市博多区のお寺が運営する「花ぞの保育園」が経営難を理由に閉園しました。在園児数十名が突然の転園を余儀なくされた。『この報道に心が痛みました。』

というのも、戦後、満州鉄道学校で講師をしていた私の祖父が母を連れ戻り引き揚げてきた折、昔の、僧侶間であつた当時のそのお寺の住職さんが、うちの境内にある保育園を運営してくれないか」と言つてくれ、浪々の身であつた祖父は有難く携へたこととなりました。

母は祖父と共に園の敷地内にある小寺に住み込み、主任保母として保育の世界に入りました。やがて母は結婚、私と弟が生まれ大学卒業の頃までそこで生活が続きました。

.....

そして昭和38年、福岡市が土地を提供して応募者に保育園を造らせる所謂、「福岡方式」なるものが動き出しました。多くの人に勧められ手を挙げた母が運よく指名され



その後、母は「きわらび保育園」を開設し、後継の私が「新宮つばみ保育園」を開設し、分園を二ヶ所付設しました。保育園経営の社会福祉法人としてはこそこの規模に育ってきました。

そして今年、多くの方々に支えられ、輔仁会も「還暦を迎える」となりました。心より感謝申しあげます。

私も在籍47年、第4コーナーを曲がりゴールも直前になりました。スマートにゴールテープを切るつもりです。その時までどうぞ宜しくお願い致します。

母は「つばみ」の運営の傍ら「花ぞの」の面倒も見ていました。しかし、昭和50年におきより経営権の返還を求められ、祖父と母は潔く退きました。

当然、住居も他に移すことになって、花ぞのとの関係は途絶えました。

変わらないものを大切に 法人本部 次長 大浦 まゆみ

(元：つぼみ保育園 事務主任 / 前：新宮つぼみ保育園 園長)



今年60周年を迎えた輔仁会。私が在職した40年の間「つばみ、さわらび、新宮つばみ」3園の歩みを見てきました。この間の世の中の変わり様には驚きの連続です。昭和の時代に何もかも手書きだったことが、パソコンであつという間にデータ化でできる。人々はスマホを手にし、文字でも声でも映像でも、どんな速い場所であつても、瞬時に連絡を取ることができる。便利な機械が作られ家事は楽になり、物が溢れ人々の暮らしは豊かになったでしょう。しかし変わらないものもあります。幼い子どもの澄んだ瞳の輝き、子どもに向ける保育者の温かいまなざし。言葉も画も良質の絵本、心地よい歌声、美しい音で奏でられる音楽…。

時代の変化により保育の方法が変わったことはあっても、輔仁会の理念は変わりません。まず子どもの「いのち」の関りだから。

60年の中で輔仁会の職員の方々に感謝しながら良いものになることと、未だ果てず。

『保育士として、母として』

保育士 原口直美



さわらびに就職して25年。様々な事を保育士として経験してきました。うまくいかない事もありましたが、先輩保育士や周りの人たちに励まされ、今まで続けることができています。

保育士として子ども達と楽しく過ごす日々の中で、子ども達の成長を近くで見ることが出来た時、保護者の方と成長を共有できた時に幸せを感じます。

そんな私も子育てに奮闘中。なかなか寝てくれない、好き嫌いをして食べてくれないなど色々かと悩むことも。帰宅してバタバタと家事に追われ、うまく関わる時間が持たない事もあり、“もっと話を聞いてあげればよかった”と寝顔を見ながら反省しています。そんな日々を繰り返して、子育ては思うようにいかないのだと痛感しています。

反省や悩みも子育ての醍醐味だと思い、今しかない子育てを楽しみながら娘と関われる時間を大切にしていこうと思います。又、子ども達との関わりや保護者の方との関わりの中で、保育士としての経験と親としての視点を活かして寄り添う関わりができたと思います。

「ちょっと手を止めて
向き合う時間を」

2025年度 父母の会 会長

井関 可南子



今年度、次女が青組さんになり、さわらび保育園最後の年となりました。

いつまで経っても赤ちゃんのイメージだった娘が、赤さんと白さんのお世話をするは何度見ても不思議な光景ではあります。が、家では見せないお姉さんの姿はとても微笑ましいです。しかし最近では、保育園では青さんを頑張っている分、お家では甘えたいようで「保育園で沢山頑張っているから」と、ワガママが増えてまいりました(笑)

私が仕事で家を空ける事が多く、寂しい思いをさせてしまっているの、あるかもしれません。ちょっとした事にも「ママ見てー!」と嬉しそうに呼びかけてくれるのに、家事など忙しいことを理由に「ちょっと待ってね」と後回しにしてしまう事もあり、いつもは「何かあったらママに何でも話してね」と伝えているのに、

**「ちょっと手を止めて
向き合う時間を」**

2025年度 父母の会 会長

私さじ加減で相手をしたりしなかったり。子どものワガママだけに目を向けず、大人のワガママにも目を向けないといけないかと日々反省しております。

子どもにとつては色々な事が大変見で、無条件で友達ではなく、一番にママとパパに“見せたい！話したい！”と思ってくれる今だからこそ、大人にとつては小さなことも、ちよつと手を止めてしっかりと向き合い、一緒に「楽しい！嬉しい！」時には「悲しい、くやしい」色々な感情を分かち合うだけでも、子どもにとつては思い出になっているのかもしれない。いつか、大人にとつては「そんなことも、楽し」と思うようなことも、楽しそうに話してくれる日を楽しみに、今のうちにしっかりと時間を作つてあげたいと思います。

井関 可南子



研修を通して
保育の質を高める

園長

子



毎日、子どもたちと一緒に過ごしていく中で、日々成長していく子どもたちの姿に驚きを感じたり大きな喜びに包まれる事が多々あります。そんな子どもたちの成長する姿に寄り添い育ちを見守っていくように、保育の質の向上を目指し研修の機会を設けています。保育の内容に関する事はもとより、子どもの人権に関する事、発達に関する事、食育に関する事など様々な方面から多岐にわたり外部の研修に参加したり、園内で研修を行ったりし

ています。外部研修後は、各目研修報告で研修の内容を再確認するとともに、園内の研修のおりに報告し職員の学びを深めます。集団の中で一人ひとりの姿はご家庭とは違いますが、各家庭ですっかりと甘えられ安心して育っているからこそ保育園の集団の中で周りの

問める

三笠 良子



大人や友達を信じることができそうです。子どもたちや保護者の方の信頼に応えられるように「学び」を通して保育の質を高めていきたいと思います。

さわらび保育園 ～55年の歩み～

1970年4月	開園 定員100名
1978年4月	増築 50名増員/定員150名
1987年4月	10名増員/定員160名
1997年4月	20名増員/定員180名
1999年4月	70名増員/定員250名
2001年4月	子育て支援室増築
2016年4月	園舎増改築 30名増員/定員280名



第1回 卒園式 卒園児と保育士

さわらびの始まり

1970年4月に開園されたさわらび保育園も2025年4月で55年を迎えました。園児100名でスタートした園舎も改修工事や増改築を数回経て今の園舎となり、定員も280名まで増えました。



2011年以前
のマーク



2011年以降
のマーク



1972年頃 園舎



1978年頃 園舎



1996年頃 園舎

保育の移り変わり

さわらび保育園では縦割り保育を取り入れ、子どもたちはその中で日々を過ごしています。1973年の4月より、週一回の縦割り活動からスタートした取り組みで、当時は核家族化や共働き世帯も増加し、子ども達同士の関わりや思いやりの心を育むことが出来るようにと始まりました。時代の移り変わりと共に縦割り保育の取り組みも変化していきました。1992年には3.4歳児の縦割り保育へ、2009年には現在の3.4.5歳児の縦割り保育へ移行してきました。

現在の音楽祭より以前に、ゼンオン主催のたんぼぼ発表会に出場していました。初めて出場したのが1978年。数年はオペレッタでの参加だったのですが、器楽合奏、そして子ども達の憧れ、さわらび太鼓の取り組みへと繋がっていきます。様々な太鼓に触れ、一人では味わえないリズムや音の広がりを感じられる太鼓を現在も子ども達と一つ一つのリズムを大切に取り組んでいます。



1981年たんぼぼ音楽研究発表会



1988年頃さわらび太鼓初披露

これまで そして これから

開園当初からたくさんの園児の成長を見守ってきたさわらび保育園。これまでの伝統を大切にしながら、時代の変化にも対応し、これからも子ども達の笑顔があふれる保育園であり続けたいと願っています。(楠本)

生まれ変わる遊具

たりしながら楽しませてくれたログハウスの遊具。経年劣化により、ささくれができたり、踏み台が外れそうになったりしていました。どうにか子ども達が大好きな遊具を残すことはできないかと検討し、業者さんに依頼して年少児もたくさん楽しめるように滑り台になりました。生まれ変わった遊具で遊ぶ子どもたちの姿が今から楽しみです。大切に使用しながら、これからも子ども達の思い出に残る遊具になっていってほしいと思います。(荒津)



After

Before

マルチに挑戦！～大きくなあれ～

ここ数年、夏の暑さや水が足りないことにより、うまく育てることが出来なかったさつま芋。今年はマルチ栽培に挑戦しようと、マルチ栽培で芋を育てていらっしゃる方に教えて頂きながら、畝づくり・マルチ掛けを行いました。苗を植える時には、いつもと違う様子に子ども達も戸惑っていましたが、マルチに穴を開けないように気をつけながら植えていました。時々、子ども達と畑を覗きながら大きくなっていく芋の葉っぱに大喜び。草取りや水やりの方法などを教えて頂き、今できることを実行しながら、収穫の日を待っています。今年は大きい芋を掘る体験を子ども達と一緒に楽しみ、達成感を味わいたいと思います。(鎌田)



2025年度 職員構成 (8月1日現在 50名) 園長 三笠 良子

副園長	大浦 哲平
主任	荒津 佐知子
副主任	楠本 勝馬
主査	中村 一星
給食主任	渡邊 和
事務主任	林 美由起
もも組	久保 香織・東 美早緒 山下 鈴華
うめ1組	鎌田 真理・藤田 海夕 福山 ひとみ
うめ2組	小林 千春・小島 智瑞 飛津 弘子・朴木 千佳子
さくら1組	渡邊 久美子・佐藤 由佳 前車 智子
さくら2組	中村 一星(※)・松田 雄紀 林田 亜由美・松本 奈緒美
さくら3組	原口 直美・下郡 三奈 中島 千賀子・柴藤 彩
フリー	佐野 美奈子・古賀 美夏 薄 一美・稲尾 友香 白水 亜紀子
つくし組	串尾 由依・安部 茉白
なののは組	湯之前 駿司・古澤 真奈美
れんげ組	下川 加南子・久積 未羽
すみれ組	友田 美桜・大鶴 彩夏
たんぽぽ組	平河 奈緒子・楠本 勝馬(※)
保育補助	堤 見子・谷岡 瑞穂
給食員	渡邊 和(※)・城戸 奈緒 串崎 美津代・神田 英里香 斎藤 豊子・南 真紀子 西原 ひろ子
用務員	倉員 明日香

(※)は再掲